

2016年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	環境とデザイン						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	建築工学コース/建築・デザインコースとも選択必修科目						
担当者	小池 博						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のヴァナキュラーな住居建築を探り、その独特な構造と意匠を記述できる。 ・環境・建築・空間・道具に関わる人間中心の環境デザインを記述できる。 ・ユニバーサルデザインの思想を記述できる。 ・景観の保全と再生のデザインを記述できる。 						
日程と内容	<p>第1回(4/12)：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法 第2回(4/19)：風土と建築1／アフリカ・ヨーロッパ・中南米のヴァナキュラー建築 レポート課題 第3回(4/23)：風土と建築2／アジア・日本のヴァナキュラー建築。 第4回(4/26)：日本の都市空間を読む1／要素のデザイン 第5回(5/10)：日本の都市空間を読む2／集落のデザイン 第6回(5/17)：日本の都市空間を読む3／都市構成の原理。 レポート課題 第7回(5/24)：広場のデザイン／人の関係としての屋外空間 第8回(5/31)：庭園のデザイン／景観の造形としての庭園 第9回(6/7)：構築物の景観デザイン／景観要素としての構築物と工学技術 第10回(6/14)：ユニバーサルデザイン／バリアフリーとノーマライゼーション。 レポート課題 第11回(6/21)：景観の保全と再生1／環境デザインとまちづくり 第12回(6/28)：景観の保全と再生2／文化遺産とまちづくり 第13回(7/5)：都市と照明デザイン／建築と都市の照明。 レポート課題 第14回(7/12)：水辺空間のデザイン／親水空間と生活資源としての水辺空間 第15回(7/19)：授業のまとめとレポート返却。 定期試験に向けた総合解説 第16回(7/26)：定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	40%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	履修登録をおこなった98名全員合格。いままで課題の未提出、期末試験の不受験などで全員合格となった年はなく、今回が初めてである。また、平均点も84点とかなり高い。従って、試験ではあるが、達成度としては100%に近いと考えられる。						
反省点	今年度の学生は昨年度と打って変わって、非常に消極的な学生が多かった。講義においても、後ろの席から埋まり、前の席に空席が目だった。また、質問を投げかけてもほとんど反応が無い。このような消極的な学生に対して有効な手段を講じることができなかった。						
来年度の計画	授業自体は年々公開授業などの指摘点を改善し、良くなってきていると思われる。ただ、前述したように、学生の質は毎年変わるため、それまで有効とされていたコミュニケーション手法が、毎年通用するとは限らない。そのあたりを含め、具体的に計画は出来ていないが、もっと消極的な学生も参加できるような方法を検討して行きたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	「分かりやすかった」という評価をたくさん頂けたのは、新入生相手の授業としては上出来だと思う。さらに「内容に興味を持てた」と評価してくれた学生も相当数おり、こちらのこの授業の意図がきちんと伝わっていることが確認できた。一方で、「暗くて眠くなった」という評価も昨年度よりは多くなった。これは昨年度は逆に「明るくてパワーポイントが見にくい」という意見を踏まえて、今年度は教室を暗くして画像を見せたのであるが、その影響かと思われる。どちらがよいか、判断が難しいが、内容の理解度を考えると、教室を暗くしてきちんと画像を見せて上げたほうが良いように思われる。						
履修登録者数	98名	定期試験 受験者数	98名	合格者数	98名	合格率	100%